

東村山市立化成小学校（2年目）

【校長】 西田 智男 【生徒数】 481 名 【学級数】 19 学級（特別支援学級 3 含む）



次の取組へ

【課題・改善】

- ・児童同士の学び合いの中で、課題を設定し、課題を解決しようとする自己調整能力を育成していく必要がある。
- ・今回の研究を通して学んだ、「児童が安心して学び合うための手だて」や「児童が自分で学びを深めるための手だて」を他の教科の指導にも取り入れ、教員の指導力の更なる向上を図る。
- 体育の授業が楽しいと思う児童の割合は、84%に低下した。原因を分析し改善策を検討する必要がある。

目標

- ・体育の授業が楽しいと思う子の割合（95%以上）
- ・週に3日以上運動する子の割合（50%以上）

【成果】

- ・安心できる学習環境を保証することで、児童同士の活発な声掛けや学習中に助け合う場面など、互いに学び合おうとする姿が多く見られるようになった。
- ・健康や食に関する知識・理解が深まり、日常生活で活用する姿が見られるようになった。
- ・体育授業の基礎・基本や指導内容を明確にすることで、体育授業に関する教員への授業改善の意識が高まった。
- ・週に3日以上運動する児童の割合が71%に増加した。

【実態・課題】

- ・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合は、令和6年度に89.8%から92%に増加した。令和7年度は、目標の95%以上を達成する。
- ・週に3日以上運動する児童の割合が44%と低い水準にある。運動の日常化を図る取組を進める必要がある。
- ・令和6年度は、校内研究を「ゲーム及びボール運動」の領域に絞って取り組んだ。教員の学びを他の領域にも一般化する必要がある。

【取組】

- アスリートの出前授業
 - ・スポーツとの多様な関わり方の観点から運動・スポーツの特性や楽しさを味わわせるため、アスリートを招聘した授業を行う。
- 体育健康教育の授業改善
 - ・「体育」「保健」「食育」の3分科会で校内研究に取り組む。「児童が安心して学び合うための手だて」「児童が自ら学びを深めるための手だて」を中心に授業改善に取り組む。
- 体育的活動の取組
 - ・運動に親しむ習慣を育てるために朝の時間や休み時間に体育的活動を展開する。

【取組（詳細）】

○ アスリートの出前授業



フェンシング：宇山 賢 選手
（第6学年）



体操：内山 由綺 選手
（第5学年）

アスリートの実演を見たり、実技体験をしたりすることで進んで運動に取り組もうとする態度の育成を図った。また、講話では、オリンピックに出場するまでの努力や工夫、自分を支えてくれる人たちへの感謝などについてお話をいただいた。「夢を実現するためにはどうしたらよいか」という生き方を見つめ直す機会にもなった。

○ 体育健康教育の授業改善



特別支援学級 食育
「給食たんけんたい」



第2学年 ゲーム
「ボール蹴りゲーム」



第3学年 保健
「けんこうな生活」



第6学年 表現運動
「激しい感じの題材」

「誰もが安心して学び合い、自ら学びを深める児童の育成～体育科の授業力向上を中心とした体育健康教育の充実～」を研究主題として、研究に取り組んだ。11月に研究発表会を行い、「児童が安心して学び合うこと」「児童が自分で学びを深めること」を柱として、2年間の研究の成果を発表した。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査結果から、保健分科会では、「日常生活で学びを実践的に生かそうとすること」、体育分科会では、「話し合いを通して児童同士が交流すること」、食育分科会では、「すべての児童がめあてをもつこと」を目指して、授業を実施した。

○ 体育的活動の取組

運動の日常化を図り、児童が運動する習慣を育てるために、昨年度から継続している「化成たいそう」「化成マラソン」「縄跳びシーズン」に加えて、「朝の外遊び」を新設した。低・中・高学年ごとに実施日を設定し登校後25分間、外遊びをする時間を確保した。



朝の外遊び